ならやま支部便り

第二百九十号(十二月号)令和5年12月1日(金)

十二月(師走(しわす)) December

七　日（木）　大雪
八　日（金）大東亜戦争開戦記念日
十三　日（水）●新月
二十二日（金）　冬至
二十三日（土）上皇陛下御誕生日
二十七日（水）○満月
三十一日（日）大晦日

今月の作品　きよしこの夜 木村怡菖

「古今和歌集　巻第六　冬歌」

年のはてによめる　春道列樹(はるみちのつらき)

三四一　昨日(きのふ)といひ　今日(けふ)と暮らして　あすか川

流れて早き　月日なりけり

〔昨日はどうだった、今日はこうだった、と言いながら暮らしているうちに明日になる、その飛鳥川の早い流れではないが、月日の経つのは早いものだ。〕

(備考)飛鳥川に明日をかけている。飛鳥川は流れのはやい印象として用いている。

十二月のスケジュール

一　日（金）・哲菖会70周年令和5年慰労懇親会　ホテルリガーレ春日野
二　日（土）・指導局部会　10時半　本部
三　日（日）・**ならやま支部第24回吟詠大会**　みささぎ会館10時
九　日（土）・本部理事会　本部
十　日（日）・全国指導者級吟士権者決定吟詩大会　高槻現代劇場
十七日（日）・第36回少壮吟士吟詠チャリティーリサイタル　アルカイックオクト
二十日（水）　ならやま水墨画教室 道場13時 半

(注)・12月1日の事務局会議のかわりに慰労懇親会です。
・12月のならやま支部役員会はなし
・12月の菖友会はありません。
・**ならやま支部の年末年始のお休み**
12月25日(月)から来年1月7日(日)まで

事務局より

☆日航最終打合せ　池田黎他1名
☆構成吟リハ　池田黎　大山　長野　山本
☆指導局部会　池田黎
☆哲菖会結成70周年記念吟詠大会　池田黎　北岡　大山　長野　峯田　池田宦　米須姮　吉田　謡　古川　山本　内山　池田玉　松岡　山中　房　木村　北　伊豆　吉田禮　河野　山田
☆役員会　池田黎　北岡　長野　古川　山本　内山
☆哲事務局会議　池田黎　長野　山本
☆全国新人・中間層コンクール　審査:池田黎　応援　北岡　長野
新人の部　入賞　河野若菜(桜クラス)
☆菖友会研修　山本
☆東明未来塾　池田黎　受講:山本
☆来年度昇格課題詩講習　池田黎
☆哲友会碑前祭&親睦会　大山　長野　山本

学びのコーナー

子曰、君子不レ器。

(為政篇二―一二)

子曰く、君子は器ならず。

(訳文)
老先生の教え。教養人は一技・一芸(器)のひとではない。〔大局を見ることのできる者である〕

今月のお誕生日コーナー

峠 知沙希さん（かぐや）
木村怡菖菖さん（寿美伶）
松浦瑠菖さん（ＫＯＫＯ通信）
山田ヨシ子さん（寿美伶火）
高橋めぐみさん（寿美伶火）
水郡 優さん（寿美伶火）
おめでとうございます。

作詩部より

「祝 哲菖会七十周年」

山本貴菖

菖門相悦顧恩光
遺徳宗師不可忘
會派興隆多感激
研磨詩道此傳香

（詩の構造）平起こり七言絶句の形で下平声七陽韻の光、忘、香の字を使っています。

（読み）「哲菖会七十周年を祝す」
菖門は相悦ぶ恩光を顧みて
遺徳宗師忘るべからず
会派は興隆す感激多し
研磨の詩道此に伝わりて香

（字解）
○恩光とは、恩恵を日光にたとえた語。すなわち哲菖先生の恩。
○遺徳とは、前人の残した徳。
○研磨とは、励み勤める事。

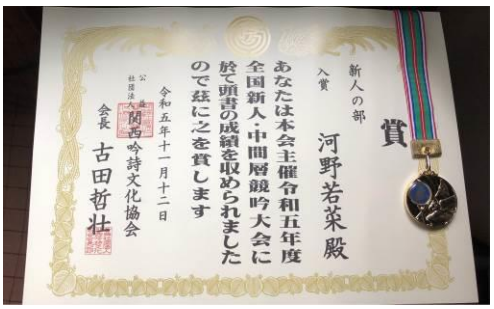
（意解）
哲菖先生の門下生は先生(に指導して頂いた)の恩愛を振り返って互い喜びあった。
先生が文化に貢献した遺徳を忘れてはならない。
哲菖会はすこぶる興隆して感激も一入である。
作詩に励み勤める詩道は今にいたるまで文化の香り高く伝わっている。

各教室より

「全国新人中間層競吟大会に参加して」

ＫＯＫＯ桜 河野若菜

大東市のキラリエホールで11月12日に全国新人中間層競吟大会が開催されました。
奈良地区大会では、体調を崩した状態での参加だった為、今回は風邪をひかないように体調を整えて臨みました。
池田先生から、他の参加者のマイクの距離をよく見ておくように教えて頂いていたのですが、音が割れないようにと教室での練習の時よりマイクとの距離を取り過ぎた結果、声が小さかったと松田先生、長野先生からご指摘を受けました。
舞台を降りた後は、過呼吸気味で胃が痛くなり会場外のベンチで、ぼんやりしていたところ、松田先生から「入賞してるよ」と教えて頂き、慌てて賞状とメダルを受け取りに行きました。
奈良地区大会では体調を整えておく事の大切さを、今回はマイク調整も大事な技術である事を学びました。少しずつ改善しながら自分のペースで今後も練習を重ねていきたいと感じました。
池田先生のご指導のお陰で、入賞する事が出来ました。
本当にどうもありがとうございました。



「東明未来塾第９期」

あげは教室 山本貴菖

東明未来塾第９期、第２回目の講義を11月18日(土)に受講しました。
本部コースで受講する人は幸せですね。東海・西中国・四国の会員は、リモートによる受講です。ビデオで映ってますから、それはそれでいいのですが、その場にいて同じ環境、同じ空気を吸って先生の息づかいを感じるという臨場感があると無いとでは、大違いですね。

コンサートを例にとると、会場に行かなくてもテレビを見ていれば充分どころか、色々なアングルでオーケストラや楽員のソロパートをとらえてくれるので、いいじゃないか、という事になります。しかし違いますね。その場にいてこそ、音楽作りを観て聴いて圧倒的な雰囲気を感じ取る事が出来るのです。

でないと、全てビデオ配信したらいいので、誰も会場に足を運ばなくなります。しかし、昔と比べてコンサートは大流行りでファンが増えてます。生がいいからです、しかし、客層は落ちてますが！

話を研修に戻します。

稲田先生の中国戦国史に学ぶは大変興味深い講義でした。特にドラマチックな所を講義して下さったので引き付けられましたる

松野先生の「吟詠における発声と音程の関係」は素晴らしい講義でした。「吟詠指導マニュアル」に松野先生がご自身で書かれたものに沿って講義は行われました。

普通、未来塾は1シーズンで完了の講座ですので、何シーズンも受講することはないですね。受講生は実技指導のあまりの素晴らしさに感激したと思います。先生はマンネリに陥ることなく、骨格は同じなのですが、講義の都度、細部に変化を持たせて、またそれに関わる周辺知識にもバリエーションがあります。だから、「あー、前 聴いた」じゃないんです。先生の講義を聴くといっぱしの音楽理論通になった気分になれますよ。

他の受講生たちと、私達ならやま支部からのかつての受講生の決定的な違いは、先生が音階・音程・発声について、レッスンの時にたえず言っておられるので、理解度が全然違うということです。このことは長野先生ともよく話すことです。

詩吟を勉強する上で、ハウツーものは誰もが聴きたかった事だと思います。しかし、マニュアル本を読むだけでは分かりにくいですね。講師の先生が、いい例と悪い例をやって見せて違いを分からせ、実際に試させるという手法でした。真面目に聴いた人には大変な収穫があったと思います。

いい講義を聴くと頭がスカッとしますね。有難う御座居ました。

「吟詠大会と忘年親睦会」

あげは教室　山本貞菖

11月23日(木・祝)に大阪リバーサイドホテル6階で哲友会主催の吟詠大会と忘年親睦会が行われました。

ならやま支部からは長野先生、大山先生と私が参加しました。哲菖会は、大坪先生、小西先生ご夫妻、川口先生が参加されました。大会は少しずれて、11時10分にスタートしました。10時から開催された「緊急幹部会議」で会長には、現在代行の山内邦照先生が会長に就任すると決定したことの報告がなされました。それ以外に2点の報告がありました。①審査と競吟出場を可として認める。②賞状を現状の特殊サイズから一般的なAサイズに変更して利便性を高める事にした。という事でした。

開会にかかわる挨拶関係は全て2分以内で気持ちがよかったです。

忘年親睦会は13時16分からスタートし、盛り上がった抽選会を含んで、15時に終わりました。

西脇先生が抽選会をトークで盛り上げて下さいました。賞品の末等は恒例の「たまご」でした。参加者の半数に何らかの賞が当たりました。「たまご」を賞品に持ってくるのはいいアイデアとセンスですね。皆が大喜びでした。

会員吟詠は詩吟を何年かした人は誰でも知っている有名な漢詩ばかりなのですが、残念ながら詩文表又は縮刷本を持って詠ってました。御祭りですから目くじら立てることはないのですが、新人じゃないのにな、という感想を持ちました。皆好き勝手に自分本位で詠うので輪唱になって笑わせてもらいました。半分余興みたいなものです。

優秀者の吟詠はさすがに気合が入って上手で聴く値打ちがありました。(中野仙英さんと山口快瑛さん)

そんなこんなで長野先生や大山先生がおられて、同じテーブルでした

ので、借りてきた猫にならず、大会と親睦会を楽しむ事が出来ました。

有難う御座居ました。

「京都水族館」

あげは教室　三谷優莉

わたしは、11月12日に、ならじゃじとひなちゃんとかと、一緒に京都水族館にいきました。はじめに「おおさんしょううお」をみました。次に、いろいろな魚をみました。いろいろな魚がいてきれいだったです。

イルカの、餌やりもみました。イルカが泳いでいるとき、シッポがとってもばたばた動いていて、水しぶきが凄かったです。

イルカショウをみたあとに、クラゲを、みました。くらげは、ふにゃふにゃで、クラゲは、心臓と、脳と、血管がありませんでした。人間が触ったら、すぐにちぎれそうでこわかったです。また、水族館に行って、いろいろなものをみたいです。

「生命探査」

あげは教室　山本貴昌

太陽系惑星の中でも地球型惑星である火星には、生命が存在する可能性があるとして、かつてバイキング計画で生命探査が行われました。もう５０年くらい前になるでしょうか。話はちょっとずれますが、アメリカの科学技術は凄いですね、当時ロケットを打ち上げて火星に着陸させるのですから。今の日本はというと、打ち上げそのものに失敗ばかりしています。ＪＡＸＡやる気があるのか本当に情けないですね。グチっても仕方が無いのでこれが日本の実力なんだと諦めて話を進めます。まだもう一つだけ言います。東大の世界ランキングは２９位ですよ。相撲で言えば欧米の大学が三役なら日本は幕下です。涙がちょちょぎれます。

探査機が採取した試料に有機物・生命体があれば目出度しなのですが、無機物と有機物を区別し、生命であると認識出来なければなりません。その為には生命とはというその定義に沿った分析をする必要がありました。

ＮＡＳＡは生命を生命たらしめている最も大事な機能として、絞り込みます。特に次が大事です①代謝しているかどうか。生物はエネルギー代謝をしているので、代謝が認められれば生物である。②生命は自己複製する。生命体は複製機能を持つ。他には進化するとか、発達するとか、自律性があるとか、色々あるのですが、それらは捨象しました。火星上で分析できる必要最小限に留めたのです。有機物は見つけられませんでした。ガスで出来た木星型惑星には地表はないので生命はないでしょう。しかし、木星や土星の衛星には生命存在の可能性は微かですがあります。銀河(我々の銀河もです)が宇宙にどれくらい有るのかというと2兆と言われてます。私が勉強した頃は一千億個でした。地球のお友達がいればいいのですが⁉

哲菖会７０周年記念大会感想文コーナー

平松教室　峯田菖登

皆さんお疲れ様でした、何かにつけて大成功でした―

良かった　良かった

西田辺　大山水菖

「あなたと万葉ロマンを楽しもう 哲菖会」プログラムのもと、吟詠祝賀会が行われました。会長、副会長の先生方は、半年も前から企画準備され、当日は池田会長、山本大会委員長の指示でそれぞれの役割を果たすことが出来ました。色々反省はありますが、次に伝えられるようにと、思います。

決められた時間の中、細かな時間短縮を個々に会長がお願いされ、無事、来賓の先生方をお送りすることが出来ました。

本当にお疲れ様でした。実際、本部９０周年とこの７０周年が１週間というのは、大変な事だと感じました。それでも出席し協力して下さった会員の皆さんと一緒に頑張った感があって、暖かい気持ちになります。

池田先生の民謡と吟詠で締めくくった会員吟詠。「天上の虹・・・星になった万葉人」の構成番組とマッチングされた祝宴オープニングのまほろば円舞で相乗効果を上げて聴いて、見てよかったです。

７０周年のよき一日を過ごさせて頂き本当に有難う御座居ました。

寿美伶教室　山中房菖

昨日は70周年無事終了おめでとうございました。池田先生始め役員の先生方には大変お世話になりました。御礼申し上げます。楽しい一日を過ごす事が出来ました。祝宴での万葉ダンスファンタジーは素晴らしかったです。また見たいなあと思いました。

光台教室　古川龍菖

大変お世話になりました。楽しいイベントで有意義でした

あげは教室　山本貢菖

大変盛り上がった素晴らしい記念大会でした。本当にお疲れ様でした。有難う御座居ました。時間を節約して懇親会に入れたのが良かったです。それぞれの担当役員が自分の為すべきことをちゃんとしたのが成功のもとでしたね。

ビデオ撮影は眞保ちゃんに世話になりました。私は構成吟の映像に集中してましたので、ビデオに全く手が回りませんでした。若い子は本当に何でも出来ますね。晶君の司会の上手い事、びっくりしました。声もいいし素晴らしかったです。

寿美伶教室　木村怡菖

池田先生始め役員の先生方大変お疲れ様でした。盛会裏に終わり素晴らしい記念大会でした。初代会長田中哲菖先生の新たな吟を会員全員で詠わせて頂いた事は今まで知らなかった哲菖先生の吟に触れ大変良かったと思います。

又企画構成番組は万葉集を知りそして万葉ロマンを楽しませていただきました。有意義なひと時をありがとうございました。

ＫＯＫＯ桜　河野若菜

哲菖会　結成七十周年記念吟詠祝賀会

11月5日にホテル日航奈良で記念祝賀会が開催されました。

関西吟詩文化協会の創立９０周年記念誌で哲菖会の成り立ちを拝読し、田中哲菖先生の詩碑が西大寺にある事を知り祝賀会の前日に行って参りました。西大寺に住んで37年、幾度となく見ていた詩碑が哲菖先生のものだった事に驚き、また総会にて、この場で会員の皆さまが「庭石」を合吟されていたのだと思いを馳せました。

今まで、何気なく目に映っていた風景が哲菖先生の詩によって、遠い昔から受け継がれてきたものなのだと改めて認識できた事に感激致しました。

今回、先生方のご準備のおかげで、素晴らしい祝賀会に参加させて頂き本当にありがとうございました

ＫＯＫＯ桜　伊豆澄子

70周年の記念大会が盛大に開催されました。企画構成、準備等大変なご苦労がおありだったとお察しいたします。万葉集の望国の御製歌から始まり相聞雑歌の朗詠は初めて耳にいたしましたので、新鮮で嬉しく感じました。池田先生はじめ先生方の素晴らしい吟詠、本当に楽しい時間でした。祝宴のオープニングは今年15周年を迎えられたまほろば円舞会が華を添えてくださいました。私が10月29日に観劇したその一部を又観る事が出来幸せでした。少し舞台が狭くお気の毒でしたが。楽しい一日でした。

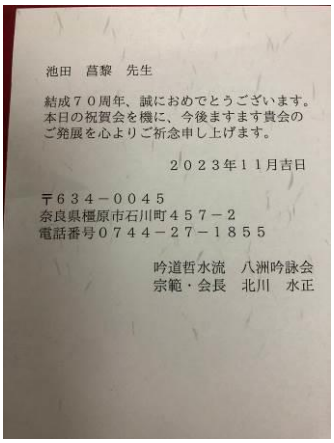
ＫＯＫＯ金　北　良夫

先生お疲れさまでした。素晴らしい会の裏方を務められた皆さんに敬意と感謝です。先生には先週に引き続いての大役で凄いと言う他ありません。ゆっくり休んで次に備えてください。

ＫＯＫＯ金　吉田禮子

大きな行事の責任を負われてほんまにお疲れのことと思います。ありがとうございますました。

以下に頂いた祝電を掲載します。



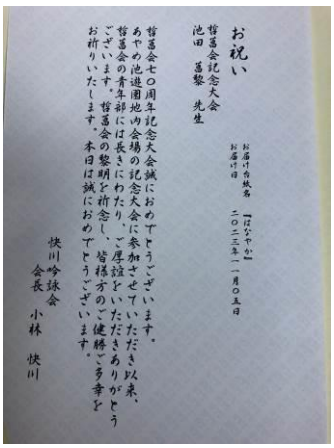
池田　菖黎　先生

結成７０周年、誠におめでとうございます。
本日の祝賀会を機に、今後ますます貴会の
ご発展を心よりご祈念申し上げます。

２０２３年１１月吉日

〒６３４－００４５
奈良県橿原市石川町４５７－２
電話番号０７４４－２７－１８５５

吟道哲水流　八洲吟詠会
宗範・会長　北川　水正



お祝い

哲菖会記念大会
池田　菖黎　先生

哲菖会七〇周年記念大会誠におめでとうございます。
あやめ池遊園地内会場の記念大会に参加させていただき以来、
哲菖会の青年部には長きにわたり、ご厚誼をいただきありがとう
ございます。哲菖会の繁栄と祈念し、皆様方のご健勝ご多幸を
お祈りいたします。本日は誠におめでとうございます。

快川吟詠会
会長　小林　快川

お届け会員名　【はるやか】
お届け日　二〇二三年一一月〇五日

【十二月のお花】　クリスマス🎄ツリー

廣瀬七重

花材
カーネーション
ガーベラ
スプレーバラ
スターチス
シンフォリフォリカス

日本楽府で読む日本史

最近新聞で読んだのですが、石田三成は人気が無かったのですが、好きとまでは言わなくても(世間、国民から)三成が見直されているという記事がありました。国民的人気という事では秀吉子飼いの加藤清正でしょうね。私の父の世代は清正大好きでしたね。私は特に好き嫌いがあるわけではなく普通でした。

私はむしろ世間とは違って三成が好きでした。三成は彼が生きた時代から同僚の武将たちから嫌われていたようですね。武将達は戦場で敵の大将首を上げるとか、一番槍をして軍功・功名を上げるのが最高の名誉だと考えていました。三成は戦場での個々の軍功より、兵站(ロジスティックス)に能力を発揮した人です。戦争(戦闘ではないですよ)に勝つための補給をどうするかを綿密に考えて実行した戦略家だったんです。日本は戦国時代から先の大戦まで兵站軽視だったのです。だから三成は珍しいですね。

しかし、彼はそれにとどまらず、野戦における戦術にも長けていました。関ケ原の合戦の布陣図を陸大の教官として招聘したドイツ軍の高級将校のメッケルに見せると西軍の勝と言ったのです。実際は西軍のぼろ負けです。それを聞いたメッケルはこの布陣で負けはあり得ないと言いました。松尾山に布陣した小早川が裏切ったと聞いて納得したと言われてます。兵站を軽視揶揄する言葉があります。「輜重が兵隊なら蝶々トンボも鳥のうち」

私が三成を評価するのは、豊臣家への忠誠もありますが、もっと彼が子供の頃の逸話です。詳しくは言いませんが、「三献茶」です。

今月は加藤清正です。最近は清正を貶めた人物評価をする人もいます。英雄を引きずり下ろしたい、ただの詰まらんやつだという、歪んだ感情でしょうかね。色んな逸話から江戸時代から清正人気・評価は高かったようです。

この関は熟語も難しく歴史的事実を知らなければ理解が難しいですし、辞書片手でないと読めないし意味も分からないですね。

第六十五関【夜叉来（やしゃきたる）】

夜叉来る。児よ啼く勿れ
王子王孫は葅醢に供せらると。
夜叉去る。心仏の如し。
霽顔辺致す琿と珉とを。
何ぞ知らむ夜叉に冤有りて涙雨の如し。
君前に地に画けば地も震怒す。
汝は夜叉に非ず吾が貙虎。
虎や虎や真に吾に類すと。
鷄林に敢て双雛を失ふを恨まむや。
蜻洲は此の短狐を噉まず。

大意

各行の意味の中に語の意味や使われ方を入れます。

さあ、鬼上官が来たぞ。子供よ泣くのをやめなさい(清正は幼名を夜叉丸といった。夜叉は鬼のこと。朝鮮の役では清正は最も怖れられ、鬼上官とあだ名されていた。鬼上官が来るというと、泣く子も静かになったという朝鮮の文献にもある。鬼上官は人間離れした恐ろしい強い武将とみるのがよい)

王子や王孫も、葅(漬物)や醢(ひしお、肉の塩辛)の如く刻まれて殺戮されたと思われていた。

その鬼上官は去った。その心は、仏の如く思いやりがあった。

講和の為に返す様に言われると、晴れ晴れとした顔(霽顔)をして捕虜になっていた琿と珉の二王子を返したのだ。

この鬼のように強い武将も冤罪の為、涙を雨のように流すことがあるのだと誰が思ったであろうか。(伏見の大地震の時、謹慎中の清正は、そのために罪になってもこのままではおられぬと、二百人を従えて、圧死者数百人を出したと言われる伏見城に真っ先に駆けつけた。すると秀吉は北政所と一緒に座っていたが、清正を見るとほっとして、その幼名を呼び「お虎よ、何とお前は早く駆けつけてくれたことか」と言って喜んだ。清正は進み出て雨のように涙を流しながら、自分の冤罪を訴えたのである)。

清正が主君秀吉の前で地面に朝鮮の地図を画きながら実戦の有様を述べている間にも、清正の

受けた不当な扱いを大地が怒っているように、激しい余震はやまなかった。（この時、秀吉は夫人の方を見て、「お虎は太って色白の男だったが、今朝鮮から帰ったところを見ると、何とも黒くなり、やつれたものよのう」と言った）。

お前は鬼上官（夜叉）と朝鮮では言われたらしいが、本当はわしの宗徒の豪傑だ（貙（ちゅうこ）虎は虎に似た猛獣で、昔は馴らして戦争に用いたというところから、強くて勇ましい兵士をさす）。

虎よ、虎よ、お前は本当にわしの家の者だよ。

鶏林と呼ばれる朝鮮で、二羽の雛（二王子）を講和の交渉の手駒として利用もせずに手放したこともあえて恨むことはない（新羅王が林中で鶏の声を聞いてそこを見ると、木の間に小箱があって子供を入れてあった。この子供が王位を継ぐことになったので、その林を鶏林と言い、新羅の国号となったが、後に朝鮮全体を指すようになった。二雛は鶏林の縁語である）。

この日本国の男子である清正は、背の低い狐みたいな石田三成には、かみつきはしなかったのだ（蜻洲はトンボのことで、トンボを意味するアキツは秋津島日本を意味し、鶏林に対比している上に、日本男子加藤清正を意味する。伏見城を守ることになった清正は、後から地震見舞いに来た者を誰一人通そうとしなかった。しかし、石田三成を通せ、という命を受けると、「あの背の低い青二才を通してやれ」と怒鳴ったという。三成はずる賢いという連想から狐にたとえ、背が低いので短狐とした。トンボが狐に噛みつかないというのは少し苦しい比喩である）。

今月の絵　Humiyo

寒くなって来て、ツワブキがあちこちで見受けられるようになりました。

菊のような黄色い花が目を引きます。

花言葉を調べてみました。

「謙遜」「謙譲」「愛よ甦れ」「困難に負けない」とありました。

日陰でも、葉を茂らせ、黄色い花が際立って咲き、丈夫さと、美しさを持っているからのようです。

Humiyo

編集後記

○哲菖会７０周年感動の祝賀会でしたね。プログラムの表紙からして素晴らしさを予感させるものがありました。

○７０周年の感想文を多くの方が投稿して下さいました。有難う御座居ます。

○河野若菜さんが全国新人中間層の競吟大会で見事入賞されました。御目出とう御座居ます。

○来年の「あやめ」ように作品や文の投稿お願いします。

○哲友会主催の忘年親睦会がありました。多くの会員に参加して雰囲気を体感して欲しいですね。

○支部便りにいろんな事を投稿して下さい。バラエティーに富んだ月報に皆でしていきましょう。

○我々の詩吟という文化クラブは疑似的とは言えゲマインシャフトの世界です。会社と違って本質的には結合してるはずなんです。頑張って仲間を増やしましょう。

「習慣は人間生活の最大の道案内である」

ヒューム

☆貫

公益社団法人）関西吟詩文化協会
公認哲菖会　ならやま支部
発行責任者　責任講師　池田菖黎
ＦＡＸ＆ＴＥＬ
０７４２―３３―３４９６

【遠足（3）家畜から…動物園へ

勝山隆男

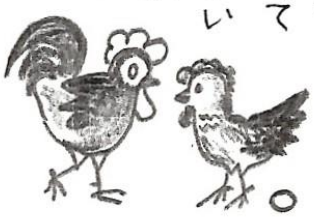
昭和20年代宇津村は大半が農家であった、自作専業農家には必ず牛が一頭、家族同様飼われていた、でも今はその牛を見たくても見られなくなった。

農家の入口は広い、大きな重い障子戸を開けると茫暗い土間である、その横には牛小屋（牛の部屋）がどの家にもあった、帰って来た家人を牛小屋から角のついた大きな首をヌーッと出して出迎えてくれる、牛好きの者はいいがそうでない者は不気味である。

牛小屋は8～10畳位の広さで、細かく切った藁が敷かれてあった、牛が餌を食べる所には貫抜きにはめられた2本の丸太の棒があるだけで、そこから首を出して餌を食べるのである、当時の牛は農耕作業には、なくてはならない大切な存在として、家族同様大切に飼われた。

鶏はどこの家庭にも7～8羽は飼われていた。朝鶏小屋から放たれた鶏は畑や家の周りをほそい足でかき散らし餌を求めていた。稲刈りをすませたあと田圃へ連れて行き落穂をこっかせた。夕方この鶏を鶏小屋に呼び寄せて入れるのが、こども達の仕事である。

鶏の種類は・名古屋コーチン・ブリモースロック・白色レグホンが多くを占めていた。鶏は小屋の隅で丈夫な色艶のいい見事な卵を産んでくれた。この卵を茶碗のふちでこっついて割り、暖かい真白など飯にかけ醤油と一緒に混ぜて食べるのは最高のご馳走だった。



山羊（やぎ）も多く飼われていた、栄養源のなかった当時は山羊のミルクを家庭で飲んで人間は元気をもらっていた。メエーメエーと鳴く山羊の鳴き声は非常にやさしくて可愛いかった

宇津のこどもは家畜を家族の一員として、よく世話をしてきた、でもこども達は教科書で多くの野獣（動物）を知っているが、実際生きて動ごいている野獣は見たことはない。象・ライオン・虎・キリン・ゴリラ・白熊・カバ・聞いただけでもワクワクする。

「おい、みんな、今度の遠足、京都の動物園へ行こうと思うが？」教室一杯に大きな歓声が沸きあがった。早速職員会に提案した、校長先生が、遠足は郡内にした方がいい。との意見、私の希望は脆く消えかけたが、粘りに粘ってやっと許可を頂いた、あの時の私は真剣勝負だった。